

横浜ゴム CSRレポート2009(冊子版およびウェブ版)に対する第三者意見



IH0E
「人と組織と地球のための国際研究所」
代表者

川北秀人

IH0E:
「地球上のすべての生命にとって、民主
的に調和的な発展のために」を目的に
1994年に設立されたNPO。主な活動は
市民団体・社会事業家のマネジメント
支援だが、大手企業のCSR支援も多く
手がける。
<http://blog.canpan.info/iihoe/>
(日本語のみ)

当意見は、本レポートおよび関連ウェブサイト(<http://www.yrc-pressroom.jp/csr>)
の記載内容、および同社の環境、購買、品質保証、商品企画、人事、広報、CSRの各担当者
へのヒアリングに基づいて執筆しています。

同社のCSRへの取り組みは、環境負荷の削減を中心に、PDCA(マネジメント・サイクル)
を進め始めようとしていると言えます。

取り組みの進捗を評価しつつ、さらなる努力を求めたい点

- 環境負荷の削減について、他社に先駆けて環境性能向上タイヤを開発・販売し、モーダルシフトや輸送体制の効率化を進めるなど、生産・物流部門での省エネ・省資源の取り組みが行われていることを評価しつつ、廃棄物発生量について国内主要事業所の半数が、温室効果ガス排出量はエネルギー原単位ベースでほぼすべての主要事業所が目標を達成できていないことを憂慮します。今後は、要因の具体的な開示と、「生産量の変動に適應しうるエネルギー使用の非固定化」(エネルギーのジャストインタイム)化など、課題と手法の可視化を徹底的に進め、部門間や海外拠点でも体制の共有が進むことを強く期待します(P19-23)。
- サプライヤーなど取引先への働きかけについて、包括契約に環境対応などの項目を盛り込んだ改定を行ったことを評価しつつ、国内外の取引先の実践状況を可視化し、自発的な取り組みを促す体制づくりを急ぐよう、強く期待します(P18)。
- 総労働時間管理や有給休暇の取得状況など、働き続けやすさの維持・向上への取り組みが進んでいることを評価しつつ、海外拠点や本社の次世代の経営層育成など、グローバル企業としての中期的な人的ポートフォリオを拡充する戦略を、早期に確立・明示することを強く期待します(P27)。
- 自主防災と地域との連携について、平塚工場をはじめとする主要拠点で、避難訓練時の協力や連携が積極的に行われていることを評価しつつ、国内外グループの主要拠点においても同様の取り組みが進むことを期待します。
- 社会貢献活動について、地域の生態系への適応に配慮した植樹・営林活動を積極的に展開していることを高く評価しつつ、国内外のグループ各社にも参画を呼び掛けるとともに、培ったノウハウを他社にも発信・共有することを期待します(P28-29)。
- 取引先、従業員、株主など主なステークホルダーへの経済的価値分配を明記した点を評価しつつ、次年度以降は、当年度の主要な変更点なども明記されるよう、期待します(P6)。

一層の努力を求めたい点

- 環境負荷から人権まで広範なCSRのテーマについて、トップダウンで方針を示すのみならず、ボトムアップによる具体的な目標・指標や施策の明示を促すために、CSR推進体制の「報告共有型」から「課題解決型」への転換が進むことを期待します(P32)。

第三者意見をいただいて

横浜ゴムは、2008年6月にCSR経営ビジョン「社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業となる」を表明し、CSRの取り組みを推進しております。

私は横浜ゴムのCSRへの取り組みをゆるぎないものにするためには、ステークホルダーの皆さまの評価・指摘を受けることが大切と考え、本年よりIH0E(人と組織の地球のための国際研究所)代表の川北秀人氏より「第三者意見」をいただくことにしました。

私はCSR担当役員として、ご意見・ご指摘を理解し迅速な対応をとるために、川北氏と各部門の対話、およびレポート編集討議に参加いたしました。そして、これらの意見交換がCSR活動を前進させる原動力になることを確信いたしました。

ご指摘いただきました課題のうち、CSR経営のあらゆる側面における「グローバル展開」については、まさに「地球貢献企業」を目指すためには欠かせない重要課題であり、迅速に取り組んでまいります。また、CSR推進体制の「課題解決型」への転換についても実現に向けて一層の努力をいたします。

その他、今回いただいた数々のご指摘を真摯に受け止め、ステークホルダーの皆さまから信頼される企業を目指して改善を進めてまいります。

取締役専務執行役員 CSR本部長 小島達成